

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-11		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にかこまれたホームである。窓も多く開放感がある。決められた時間もなく好きなように過ごしていただいている。職員も明るく、ご家族も気兼ねなく会話できていると思う。上司やスタッフに相談しやすい環境である。ケアへの取り組みに関して向上心があり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地の中にあるホームはコロナというこの難局を一致協力し、これまで通りホームからの広報誌を入居者と一緒に配布する等入居しても地域の一員として過ごす環境にある。管理者を中心に職員体制に変動も無く、意思疎通の良い関係は重度化しても最期まで過ごせる環境に表出し、塗り絵に興じる方や、入居者同士の歓談する姿等家族の様に笑って過ごせる環境が息づいている。家族との関係性も“緑仙館便り”に寄せられた熱い思いに表れており、家族からの信頼を得たホームでもある。また、ホームに即したマニュアルの見直し等毎月勉強会及び会議を行う等志向を高めたホームである。運営推進会議がコロナ禍の中で開催が危ぶまれる状況には、事前に意見を頂く等サービス向上に真摯に取り組み、コロナ禍と言えども普段の生活を垣間見る事の出来る温かいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「仁徳」が理念である。年度はじめに必ず議題としている。思いやりや慈しみである。	理念“仁徳”とともに共に倫理規定や行動指針を掲示し、年度初めの倫理や法令等の研修時に理念を再確認するとともに、日々のケアの中で振り返っている。管理者を中心として職員体制の変動も無く、コロナ禍にあっては明るい対応や入居者がしたいようにを信条として待つ姿勢等に理念を日々のケアに直結させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動参加。近所への買い物。広報誌配布での外出先で関わりを持つように心がけている。現在は出来ない状況であるが小学生や保育園児の訪問があった。	コロナ禍の中でこれまでの小学生や園児との交流は行えない状況にはあるが、清掃活動を自主的に行ったり、ホームの広報誌を入居者と一緒に配布する等これまでと変わらぬ地域との関係性を保っている。近隣住民から寄せられる花の苗が庭先を彩り、入居者と買物等に出かけると声を掛けられる等地域の中に根付いたホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の福祉体験の受け入れ。問い合わせの電話や来館された際相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子や状況を報告させていただいている。家族の会議参加が少ないので会議資料を事前に送付し意見や質問を受けられるように工夫している。サービス向上に活かしている。	運営推進会議への参加の有無と意見欄を設けた案内状を持ち届ける等、創意工夫しながら定期的開催し、議事録を配布している。参加可能時にはホームの勉強会が参考になる等の声が上がっている。	現状としては職員での開催であるものの、参加者からの意見等を事前に収集する等この会議をサービス向上に反映させたいとの思いが表れている。認知症介護の拠点としての役割や地域の交流拠点作り等地域を巻き込んだ運営推進会議にされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいております。防災や新型コロナに関する情報等電話やファクス・メールでのやり取りができています。	管理者は地域ケア会議(医療・保健・福祉・医師等)の中での情報交換、運営推進会議を通じた意見交換、行政からの感染症コロナ対策での電話やメール等行政との良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切なケアが日常化すると抑制や虐待へと化す。という内容で話し合い、見えていけど 言えないといった状況をつくらないように注意し合える関係をつくらうと努力している。やむを得ない場合以外は抑制しない方針である。	身体拘束廃止に向け、運営推進会議委員も身体拘束適正化委員の一人として、この会議の中で報告・検討する体制としている。指針を作成し、委員にも配布し、強制の無いケアや言葉遣い、無視等ケアの内容の不適切さが悪循環に繋がるとして、“入居者がしたいように 動かれるまで待つ”姿勢をモットーにしたケアに努めている。センサーマットも利用せず、気づきや観察する力を発揮し、帰宅願望には入居者同士の会話や時には職員が自宅まで付き添い、近隣住民と歓談して帰る等個々の状況を把握し、適正に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で不適切なケアとは？と問いかけ、振り返り不適切なケアへ繋がらないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に社会福祉協議会の方に聞き説明していただいたりしながら理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関わるない様や費用及び負担額の説明を行なっている。料金改定時は事前に文書にて説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画策定時やモニタリングの際意見・要望伺っている。ファクスや電話にて意見要望を受け付けている。	担当者会議の中で家族の意見等を聞き取り、これまで年1回家族との顔合わせを行っていたが、高齢化する中で誕生日に家族と担当職員との話し合いや、家族からコメントをもらう等家族との関係性が途切れないよう工夫している。毎月1回の家族への手紙にはエピソードを載せ、家族が日常を想像できるように工夫して情報を発信し、苦情相談窓口を明確にし、フローチャートで示している。	家族との関係が構築していることは、誕生日に家族に来ていただいた方がよいとして変更する等家族とともにありたいと高い意識である事に表れている。今後も忌憚の無い意見を引き出し、コロナ収束後には家族同士の交流する機会として家族会の開催に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議で職員が発言できる機会を設けています。意見を反映するための努力をしています。	各担当者による勉強会によりスキルアップを図り、全職員が一堂に会した会議を開催(毎月)し、物品や介護計画の見直しの他、ホームに即したマニュアルの見直しを行う等ケア向上に意欲的である。また、日々の申し送りを充実させている。施設長及び管理者、職員の変わりの無い職員体制は、何事も合議での決定としており、職員の意見や提案をケアサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や職場内での会話により、職員のストレスの要因を考え向上心を持てる環境づくりに努めています。積極的な資格取得を促し、やりがいや自信がケアの質の向上につながるかと考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会による学習意欲がある為、自ら取り組み常に良い事を行動に移し職員同志の成長が伺えます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講演会による学習意欲がある為、自ら取り組み常に良い事を行動に移し職員同志の成長が伺えます。講習会に積極的に出席し学んだ事を職員全体が自己啓発の材料として確実に理解し職場に反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接や入居後にも生活の様子を伝えながら情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にケア担当を決めており、ご本人とその家族とケア担当で連絡のやり取りをさせていただきながら要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の担当ケアマネジャーの方から情報をいただき必要なサービスの要点は知る事ができている。恵かに応じ対応し良かった時、悪かった時など伝えあうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話をよく聞き一緒に作業したり積極的な言動や自発動作を受けとりながら、お願いしたりフォローしながら自信につながるよう気持ちを大切にしようと努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の架け橋となる。月に一度家族へ生活の様子を手紙に、2ヶ月に一度広報を送付している。協力していただきたい事柄や家族の希望・要望など言いやすい環境になるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容店へ家族が連れて行かれたり、かけたい時に電話を利用されたり自宅への外出・外泊を協力していただいている。	自宅の仏壇参りや、盆・正月、ゴールデンウィーク時には家族と自宅で過ごされる等今できる限りの家族の協力を得て支援している。昔の生活はどうだったか等模索しながら支援している。新聞に目を通したり、家族のプレゼントの塗り絵に集中される等ホームの生活や入居者と同郷である等も馴染みの関係に深まりを見せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2,3人で話したり、足浴したり厨房や洗濯物たたみなど見守っているトラブルになりそうになったら様子をみながら介入している。「呼んでよー」と教えてくれたり、手を引いて案内して下さったりしている光景がみられることもある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルをホームで過ごされたご家族より手紙を頂いたり、来館して下さることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちが一番と心がけている。言動や表情・仕草から感じとるようにしている。スタッフ間での会話の中からヒントや発見もある。	入居者の日々の生活の中で把握した事案等、その人が何を思っておられるかを、職員が見ていることで入居者同士の会話や行動等からサインを見落とさないよう努めている。入居者の言葉を手紙にのせて家族に発信したり、プラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族からの情報をもとに把握するように努めている。面会時にご家族が思いだして情報を得るときもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調観察、特に排便の有無は不穩の原因になりやすいので注意している。習慣・リズムがあることを理解しその人のペースに合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・ケア担当・作成担当で行なっている。モニタリングはケース担当が実施。作成前に皆さんに意見をだしてもらっている。	本人・家族の意向を具体的に反映させる等、職歴を生かした活用役割のある日常や機能・能力を発揮させるための具体的なプランが作成させている。3ヶ月毎のモニタリングにより継続の可否を見極め、半年毎の見直し等現状に即したプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況はつかめるが、記入される側(本人)の気持ちが記録に残せていない。これが次へと繋ぐポイントになる要素かもしれないし、勿論スタッフの気付きも記入できるよう努力したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や散髪、自宅の仏壇参り、本人が希望しておられる様子を家族へ伝え協力いただき実施できている気分転換に外出に誘ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買出し、本社事務所へ近所の道の駅まで散歩、広報紙配布での外出と近隣へ出かけている。ご家族と誕生祝いの計画をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急対応・眼科・整形・訪問看護が受けられる病院がかかりつけ医となっている。近所の歯科も受診している。かかりつけ医を変更する場合などご家族の同意を得ている。	現在は本人・家族の了承のもと、協力医療機関をかかりつけ医とし、職員による受診支援が行われている。予約を入れる事でスムーズな受診に繋がっている。また、医師より家族への説明が必要な場合は、同席されている。緊急時対応や訪問看護支援のある協力医の存在は、家族やホームにとっても心強いものとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不安や迷った時相談し、日頃と違った変化など連絡している。必要な時は病院へ報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供。退院前のカンファレンス実施できている。入院中、家族の意向病院へ連絡し主治医へ伝わるような関係性も良好である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	経口摂取できず経管栄養希望された場合は退所となっている。ターミナルケアはホームで家族・病院・訪問看護利用し実施している。家族の協力も必要になることやホームでの対病院の対応など理解していただいている。	ホームの看取りケアの取組や、経管栄養が必要となれば対応ができない事などを伝え、理解を得て対応している。急変による対応は、家族や医師と十分話し合い、書面に残している。また、家族の相談や不安なことには、その都度応じていくことも申し添えている。この2年間で医師や訪問看護とに連携、家族の宿泊やたびたびの面会などの協力により、お二人の最終を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の大きさにもよるが避難先は本社である。備蓄(水・食品・毛布など)している。	今年度は、災害時対応手順役割分担に関する研修や消防訓練を実施している。訓練は、電気・水道も使えないことを想定し実施しており、どんなことが不自由であるかを検討したり、備蓄食も味などを確認している。自然災害について、土砂崩れの心配はあり、ホームに居住できない状態になった場合は、法人本社に避難することとしている。災害時の備蓄は、担当職員が中心に発注しており、リストも作成している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴は勿論であるが大声での会話。面会時や個人的な事柄に配慮に努めている。	毎月の研修の中にプライバシー保護に関する内容を設け、担当職員が中心になって進められている。不適切なケアをしないことを職員間で共有し、必要なサポートに努めている。呼称は苗字や下の名をはじめ、反応や家族の希望なども確認し、個々に応じて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に聞く、伝えることが出来ない場合、快・不快をくみとり手を出すべきかそうでないか考えるようにし無理強いをしない。行動を見守りながら介入していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の習慣を崩さないよう、意志尊重に努めている。ペースに合わせる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やパーマをかけられたり。身ざれいに爪やひげなど出来ない方には介助で清潔で居ていただきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作ったり、嚥下状態に応じて食形態を工夫している。誕生日に本人の好きなメニューにしたり外食したりしている。	献立は季節感や入居者の好みを取り入れながら作成している。広い厨房では職員が手際よく調理を進め、傍らで白い割烹着をきた入居者が、リンゴの皮むきやサラダの混ぜ合わせをされる姿も見られた。近隣者や知人からの野菜の差し入れも多く、旬を活かしたメニューに活用されている。味覚が減少されてきた入居者もおられることことから、盛り付けや食事時の雰囲気などにも配慮しながら支援にあたっている。	「今日のご飯はなんな～！」と、食事を楽しみにされている方が多いと思われる、入居者の出番作りの一環として、以前のようにメニュー書きをされることも良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量観察している。食事のタイミング・食形態など観察し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人に合った方法で実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着使用。下着+パット使用。トイレ及びポータブルトイレ利用。排泄後清拭や洗浄での清潔保持に努めている。	リハビリパンツやオムツの使用はなく、全員が布パンツのみやパットを併用し過ごされている。パットは大きさなど使い分けを検討しており、家族の負担軽減に繋げている。昼夜や夜のみ使用される方のポータブルトイレは、掃除を徹底し気持ちよく使用できるようにしている。排泄支援の状況も家族と共有できるよう、エピソードを入れながら家族に伝えており安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・野菜ジュース・バナナジュースや豆類や繊維のあるおやつにし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は予め決めているが時間は決めていない。タイミングや希望に応じている。入浴日以外は足浴+アロママッサージ実施している。	入浴は月曜から土曜まで午前・午後で支援し、日曜日は寄り添いの日としている。全員が湯舟に浸かれており、入浴がない時は、雰囲気を変え足浴やアロママッサージによりゆっくりとした時間を支援している。拒否がある方でも職員の普段のコミュニケーションにより、週3回は入られている。	入浴後は臭気なども残らないよう掃除が徹底されている。カミソリやハサミなどは安全面からも別の場所での管理が望ましいと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の好きな時ベッドやソファで休まれている。夜間トイレの回数が多く通われる方はおられるが徘徊や眠れないといった状態の方はおられない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルに綴じてあり、いつでも見れるようにしている。効果をみながら主治医に相談し止めたり、減らしたり調整していただいて管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ・新聞・塗り絵・書字・家事・外出その方が出来る したいことをされるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や知人の協力で自宅への外出が多い。本人が帰ってみたいと希望あればその時にスタッフと外出している。	外出や帰宅願望のある方には、職員が自宅までドライブに出たり、敷地内の散歩など、個々に応じて支援している。家族による外出の協力も多くあり、仏壇まいりや、美容室利用、盆・正月・ゴールデンウィーク時の外泊などが行われており、状況に応じて外泊人数が少なくなったり、外出への変更をされるようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持管理されている方はおられない。金庫で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話されたり、かけるのを手伝ったり。家族からの手紙読まれたり返事書いたり。コロナの状況もありテレビ電話や動画をご家族に送信したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこにでも座れるよう座る場所がある。自室には馴染みのものや家族との写真がある。	ホーム内は入居者や季節に応じて室温管理に努めており、冬場は特に立地面から、エアコンとファンヒーターを換気に配慮しながら使用し暖を取っている。また日々の掃除により清潔や臭気のない空間を作り、足浴などにも使用するアロマオイルの香りは、ホーム内に薄っすら届き、入居者にとっては慣れ親しんだものとなっている。リビング内の窓は、殆どが大きな掃き出し窓であり、圧迫感のない空間で、家族から送られた色鉛筆で日課の塗り絵をされる方や、気の合った方いつもの談笑など日常を窺うことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間ではないので人が居る気配は感じやすい広さである。どこにでも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	移動の導線に配慮しベッドの位置を決めている。家族に相談しながら自宅にあるものを置いておられる。	居室にはテレビや家具(椅子・チェスト他)など大型の持ち込みも多く、ベッドと併せ、入居者に合わせて配置を検討している。中には職員の提案により自宅にあった表札が下げられた部屋もあり、我が家らしい雰囲気伝わってくる。居室は広すぎず入居者にとっては落ち着けるスペースであり、希望や身体状況に応じて室内での食事を摂る方もおられる。また、ベッドに腰かけ、思いを口にしながら足浴サービスを受ける方など、居心地よく過ごせる空間となっている。	コロナ感染症により、今年度は特に換気や掃除の徹底に努めている。また、オムツや紙パンツの使用がないことは、臭気のない空間に繋がっている。感染症の終息まで、引き続き家族に代わって居室環境の整備に努めていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなくドアは引き戸である。場所の提示で文字で表示し張り紙をしたり。手すりやベッドサイドにL字バー設置で立ちあがりやすくしている。		